

エコアクション21 環境経営レポート2020



第18期

対象期間 2020年7月～2021年6月



®環境省

エコアクション21

認証番号0008570

2022年 3月 10日発行



株式会社テクノ月星



目 次

1. 組織の概要	4
2. 認証・登録の対象範囲と主要製品	4～5
3. 環境経営方針	6
4. 環境経営推進体制	7
5. 環境経営目標	8
6. 環境経営計画	9
7. 環境経営目標の実績	10～11
8. 環境経営計画の取組結果と評価	12～13
9. 来年度の環境経営の計画	14
10. 環境関連法規の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無	15
11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	16

当社所在地

福岡県うきは市の風景

美しい自然と伝統文化はうきは市の宝です。当社は緑豊かな田園地帯に所在しており、工場内には農業用水路もあります。周囲の環境へ配慮した操業にこれからも努めてまいります。



つづら棚田(日本の棚田百選)

吉井 白壁土蔵の街並み



筑後川温泉郷



筑後川の鴨飼い

名産フルーツ狩り(柿・ぶどう・なし・もも・いちご・ブルーベリーetc)



福岡県うきは市
当社所在地

1. 組織の概要

① 事業所名 代表者氏名	株式会社 テクノ月星 代表取締役 柿永 正利																
② 所在地	本社 〒839-1498 福岡県うきは市浮羽町高見215番地 TEL 0943-77-2141 FAX0943-77-6949																
③ 環境管理責任者 担当者連絡先	常務取締役総務部長 樋口 勝範 総務部 工務課長 田辺 智之																
④ 事業の概要 主要製品	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造 ゴムガスケット、ゴムスリーブ、ゴムホースなど																
⑤ 事業の規模	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上高（百万円）</td> <td>2,890</td> <td>2,619</td> <td>2,205</td> </tr> <tr> <td>従業員数（人）</td> <td>189</td> <td>179</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>延床面積（m²）</td> <td>25,325</td> <td>25,325</td> <td>25,325</td> </tr> </tbody> </table> <p>※売上高は生産金額に管理費、運搬費等を加えたものである。</p>		2018年度	2019年度	2020年度	売上高（百万円）	2,890	2,619	2,205	従業員数（人）	189	179	176	延床面積（m ² ）	25,325	25,325	25,325
	2018年度	2019年度	2020年度														
売上高（百万円）	2,890	2,619	2,205														
従業員数（人）	189	179	176														
延床面積（m ² ）	25,325	25,325	25,325														
⑥ 事業年度	7月～翌年6月																
⑦ 法人設立年月日	2004年4月1日																
⑧ 資本金	90 百万円																

2. 認証・登録の範囲（全組織、全活動）

① 事業所名 所在地	株式会社 テクノ月星 〒839-1498 福岡県うきは市浮羽町高見215番地
② 対象組織	本社・工場
③ 対象活動	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造
④ 関連事業所	なし



主要製品

●化成品事業部

各種工業用ゴム成型品



発泡PVCクッション材



耐電ゴム手袋



マルチコート
(ガラスびんコーティング)

新開発商品

次世代のクリーンエネルギーである高圧水素に対応する
Oリングを福岡県と共同で開発しました。(特許出願中)
一般Oリング



高圧水素ガスシール用Oリング



曝露前 曝露後

新開発Oリング



曝露前 曝露後



●工業用品事業部

製鉄用ゴムスリーブ



各種ゴム押出成型品



各種ゴムライニング



各種工業用ゴム成型品



船舶・港湾用防舷材



各種シリコンゴム・
ウレタンゴム成型品

経営理念

私たちテクノ月星は お客様に満足いただける
価値ある「もの創り」を通じて社会に貢献します

環境経営方針

〈環境理念〉

当社は、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮し、
継続的な改善を通じて、緑豊かな地域環境を守ると共に、
地球環境への負荷低減や持続可能な社会づくりに取り組みます。

〈行動指針〉

1. 重点目標

- (1) 節電と省エネルギー化に努め、二酸化炭素排出量を削減します
- (2) 廃棄物の削減及び再資源化に取り組みます
- (3) 節水に努め、水使用量を削減します
- (4) 化学物質使用量の削減と適正管理に努めます
- (5) 生産の効率化に取り組み、環境配慮に努めます

2. 環境関連法規及び、当社が同意するその他の要求事項を遵守します

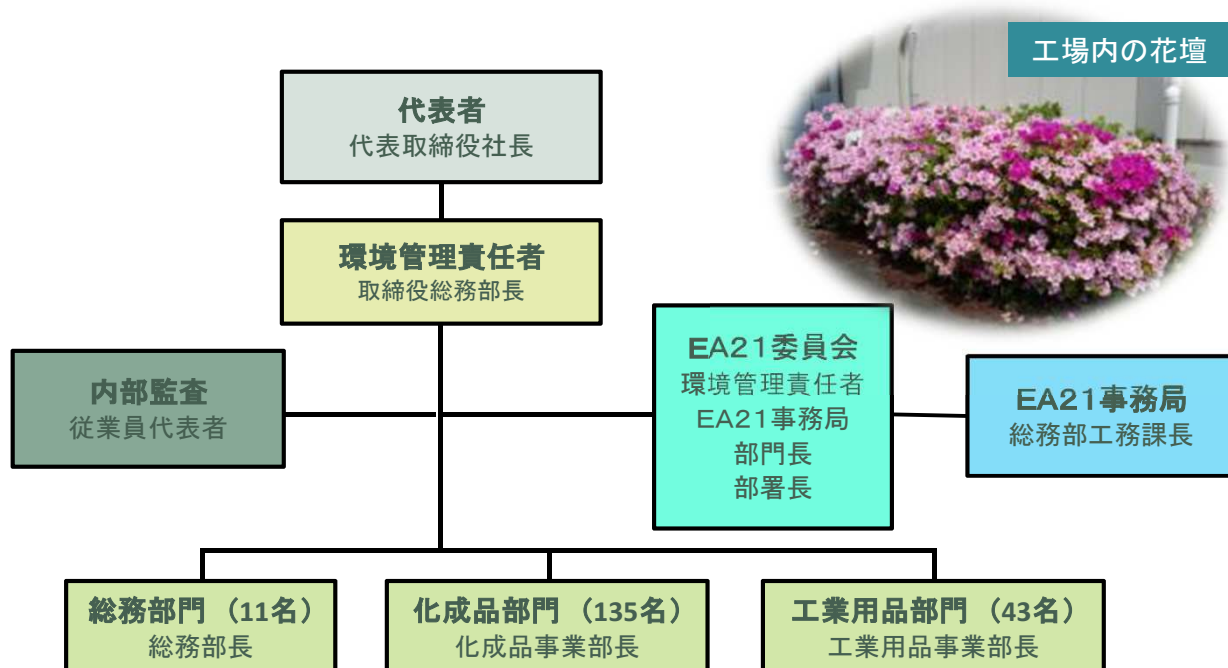
3. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸で環境活動を推進します

2020年7月1日



株式会社テクノ月星
代表取締役 柿永 正利

4. 環境経営推進体制



【役割分担】

所属	役割・権限・責任
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する 環境への取組を実施する為の資源(人・物・金・情報等)を用意する EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる 環境経営目標、環境経営計画を作成する 毎月1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実行状況を確認する 上記の結果を代表者に報告する 内部監査を計画する
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題に関する必要事項を協議、検討、審議する (毎月の生産販売会議に引き続き開催する)
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、EA21文書、記録類及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
内部監査委員	<ul style="list-style-type: none"> 自社の環境への取り組みについて内部監査を行う (内部監査についてはEA21委員会と独立した立場で行う)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境経営活動を推進する 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する 自部門に関連する法規制等を遵守する 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する 自部門の教育・訓練を実施する
全社員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

5. 環境経営目標

環境経営目標 (単位)		基準年度 (2019年度実績)	当年度 (2020年度) 目標値 (基準年度 △1%)	2021年度 目標値 (基準年度 △1.5%)	2022年度 目標値 (基準年度 △1.8%)	2023年度 目標値 (基準年度 △2%)
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂)	2,620,934	2,594,725	2,581,620	2,573,757	2,568,515
	原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	1,162	1,150	1,144	114,085	1,139
電力使用量	総量 (kWh)	2,626,250	2,599,988	2,586,856	2,578,978	2,573,725
	原単位 (kWh/百万円)	1,164	1,152	1,147	114,316	1,141
ガソリン使用量	総量 (L)	9,893	9,794	9,745	9,715	9,695
	原単位 (L/百万円)	4.39	4.34	4.32	4.31	4.30
軽油使用量	総量 (L)	5,981	5,921	5,891	5,873	5,861
	原単位 (L/百万円)	2.65	2.62	2.61	2.60	2.60
灯油使用量	総量 (L)	22,544	22,319	22,206	22,138	22,093
	原単位 (L/百万円)	9.99	9.89	9.84	9.81	9.79
LPG使用量	総量 (kg)	20,505	20,300	20,197	20,136	20,095
	原単位 (kg/百万円)	9.09	9.00	8.95	8.93	8.91
LNG使用量	総量 (kg)	552,060	546,539	543,779	542,123	541,019
	原単位 (kg/百万円)	245	242	241	240	240
廃棄物排出量	総量 (kg)	276,510	273,745	272,362	271,533	270,980
	原単位 (kg/百万円)	123	121	121	120	120
水使用量 (地下水)	総量 (m ³)	240,419	238,015	236,813	236,091	235,611
	原単位 (m ³ /百万円)	107	106	105	105	104
化学物質の 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化 (化成品工場)	生産性 (円/h)	7,482	7,407	7,558	未設定	未設定
生産金額計画	(百万円)	2,256	2,267	—	—	—

※基準年度は、ボイラ燃料転換を採用した2019年度にした。

※二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO₂/kwh(2019年度九州電力、調整後)を使用した。

※単位は排出量または使用量/生産金額 (生産効率化の単位は生産金額/操業時間)とする。

6. 環境経営計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減 目標:ボイラ燃料転換で大幅減して継続中。

取組目標	活動項目
電気使用量の1%削減	・高効率機器への更新 ・照明器具LED化
LNG使用量の削減(今年度) (ボイラ燃料転換)	・ボイラ燃料転換2018年～(A重油→LNG) ・高効率ボイラへの更新
ガソリン使用量の1%削減	・低燃費車の導入・更新
灯油使用量の1%削減	・押出作業時間／工程の検討・調整(加熱設備) ・押出CV-2起動時間の見直し(時季対応)

※この初期に想定した環境経営計画に加え軽油・LPGの使用量及び削減目標を追加。

(2) 産業廃棄物排出量の削減 目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	活動項目
不良損失率1%削減	・作業指導・品質教育の実施 ・プロジェクトチーム活動の活性化
廃却ゴム率の1%削減	・押出:廃却内容の分析、改善／生産工程の見直し ・ラッピング:貼付厚み・長さ管理／ゴム横流れ改善

(3) 水使用量の削減 目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	活動項目
節水活動の推進	・防火用水吐出量調整 ・給水管の点検

(4) 化学物質の適正管理

取組目標	活動項目
使用量の適正管理	・品種毎の使用量、在庫量の把握 ・目で見える管理の推進

(5) 生産効率化の取組み

取組目標	活動項目
生産性向上取組みの推進	・化成品:製造課・技術課が連携し、4Mカイゼンに取り組む ・工業用品:加硫前検査の徹底、製造方法の確立、作業手順書の改善

7. 環境経営目標の実績

達成状況の判定 ○:達成率100% △:100>達成率≤75 ×:達成率<75 達成率:目標値/実績値×100

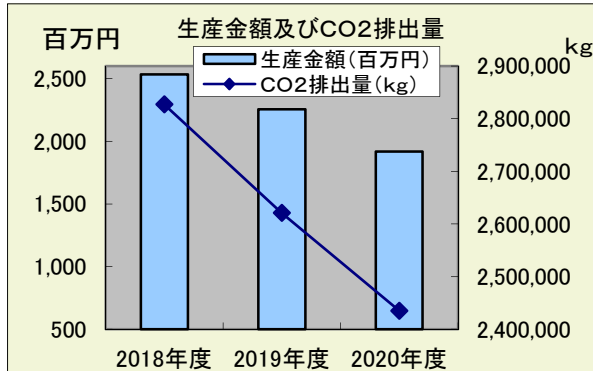
環境経営目標 (単位)		当年度 (2020年度) 目標値	当年度(2020年7月～2021年6月)実績		
			実績値	達成率	達成度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO2)	2,594,725	2,435,190	91%	△
	原単位 (kg-CO2/百万円)	1,150	1,270		
電力使用量	総量 (kWh)	2,599,988	2,508,802	88%	△
	原単位 (kWh/百万円)	1,152	1,308		
ガソリン使用量	総量 (L)	9,794	7,563	110%	○
	原単位 (L/百万円)	4.34	3.94		
軽油使用量	総量 (L)	5,921	5,572	90%	△
	原単位 (L/百万円)	2.62	2.91		
灯油使用量	総量 (L)	22,319	24,112	79%	△
	原単位 (L/百万円)	9.89	12.6		
LPG使用量	総量 (kg)	20,300	22,872	76%	△
	原単位 (kg/百万円)	9.09	11.9		
LNG使用量	総量 (kg)	546,539	497,720	93%	△
	原単位 (kg/百万円)	242	259		
廃棄物排出量	総量 (kg)	273,745	256,600	90%	△
	原単位 (kg/百万円)	121	134		
水使用量 (地下水)	総量 (m3)	238,015	229,062	89%	△
	原単位 (m3/百万円)	106	119		
化学物質の 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化 (化成品工場)	生産性 (円/h)	7,407	7,333	101%	○
生産金額	(百万円)	2,267	1,918	※達成率と判定は原単位対象	

※二酸化炭素排出量において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO2/kwh(2019年度九州電力、調整後)を使用した。
 ※単位は排出量または使用量/生産金額(生産効率化の単位は生産金額/操業時間)、達成率は目標値/実績値。

過去3年間の環境負荷推移

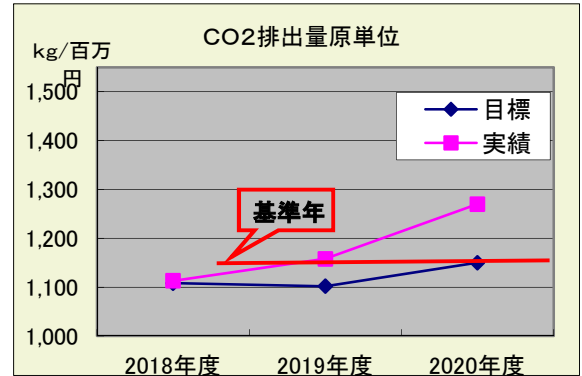
生産金額及び二酸化炭素(CO2)排出量

	2018年度	2019年度	2020年度
生産金額(百万円)	2,534	2,256	1,918
CO2排出量(kg)	2,827,161	2,620,934	2,435,190



CO2排出量原単位(kg/百万円)

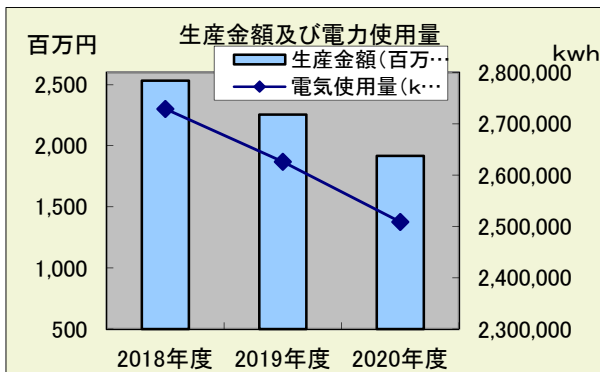
基準年	年度	2018年度	2019年度	2020年度
	目標	1,108	1,102	1,150
1,162	実績	1,113	1,158	1,270



評価: 2020年度は昨年から続く新型コロナの影響で生産金額が減少したが工場稼働は(生産額に比例しない)熱源が必要なため原単位においては効率が下がり目標達成にマイナス影響となった。

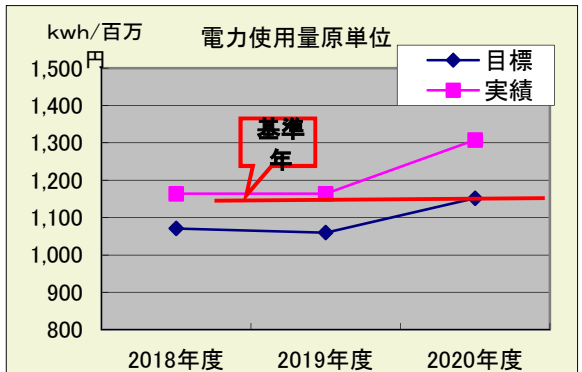
生産金額及び電力使用量

	2018年度	2019年度	2020年度
生産金額(百万円)	2,534	2,256	1,918
電気使用量(kwh)	2,728,944	2,626,250	2,508,802



電力使用量原単位(kwh/百万円)

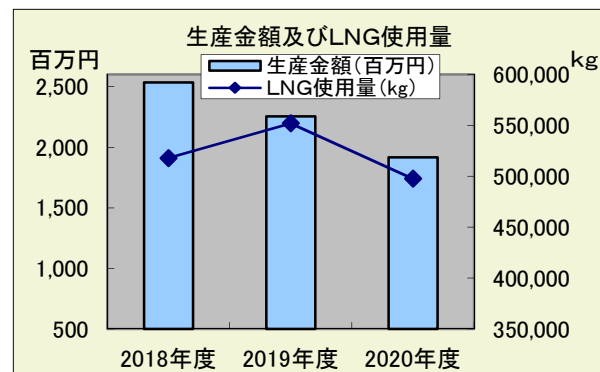
基準年	年度	2018年度	2019年度	2020年度
	目標	1,071	1,060	1,152
1,152	実績	1,164	1,164	1,308



評価: 新型コロナの影響で生産金額が減少のため生産に於ける電力使用は減少したが、工場稼働時の空調などは例年どおり必要なため、目標達成にマイナス影響となった。

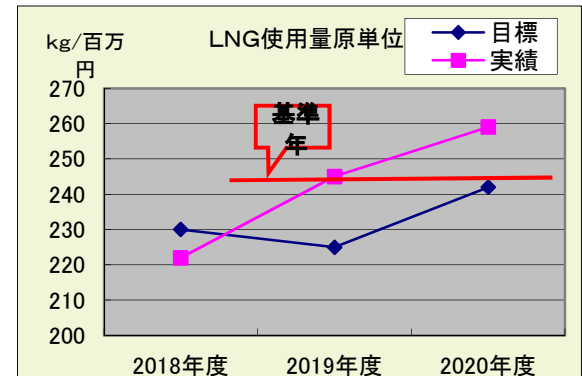
生産金額及びLNG使用量

	2018年度	2019年度	2020年度
生産金額(百万円)	2,534	2,256	1,918
LNG使用量(kg)	518,050	552,060	497,720



LNG使用量原単位(kg/百万円)

基準年	年度	2018年度	2019年度	2020年度
	目標	230	225	242
242	実績	222	245	259



評価: ボイラ熱源をA重油からLNGガスに転換して操業中。今回、1年間を通しLNGを使用した。今年はコロナ過で生産計画の減少影響で計画のLNG設備がフルな使用には至っておらず結果として目標達成の実績が測れない状態となった。

8. 環境経営計画の取組結果と評価

達成状況の判定 ○:達成率≥100% △:100>達成率≥75 ×:達成率<75 達成率:目標値/実績値×100

実施状況の判定 ○:実行されている △:実行されているが十分でない ×:実行されていない

(1) 二酸化炭素排出量の削減 目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
電気使用量 1%削減	△	照明機器LED化	○	工場・事務所の未使用エリアの消灯活動、空調のカットを継続的に実施中である。設備更新時には高効率機器の選定を選定の条件に加えている。
		高効率変圧器への更新	○	
		省エネパトロール	△	
LNG使用量 1%削減	△	工場毎の蒸気供給時間管理	○	工場部門とエネルギー供給部署との稼働状況の密な連絡により適正な蒸気供給時間管理を実施しているが、コロナ過における生産金額減少により対エネルギー効率は悪化した。
		熱回収状況の管理	○	
ガソリン使用量 1%削減	○	低燃費車の導入・更新	○	営業要社用車のエコ運転も社員に定着。低燃費車への更新も終了し目標達成。
灯油使用量 1%削減	△	押出作業時間/工程の検討・調整	○	押出機予熱時間の季節毎の必要時間を細分化設定し実行中だがコロナ過で計画どおりならず。今後も適正な加熱時間管理により目標達成を目指す。
		押出起動時間の見直し	○	
軽油使用量 1%削減	△	急のつく操作をせずエコ運転を行う。	○	社用トラック(2t車)用。エコ運転に心がけるよう運転する社員に伝達。
LPG使用量 1%削減	△	加熱時間の管理	○	加熱の必要時間 必要温度を細分化設定し実行中今後も適正な加熱時間管理により目標達成を目指す。
		工程の検討・調整	○	

【主な活動事例】

恒温試験室 壁断熱更新 2021年6月



工場照明LED化 ロール工場 2021年4月(継続実施中)



(2) 産業廃棄物排出量の削減 目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
不良損失率 1%削減	△	作業指導・品質教育 プロジェクトチーム活動	○	7月(なぜか8月は基準値以下)9月度10月度の損失率が全体を押し上げている。人員配置を含め原因の研究を要する。
廃却ゴム率 1%削減	△	押出廃却内容分析・改善 貼付厚み・長さ管理 ゴム横流れ改善	△	昨年からの継続する課題であるが従来からの技術向上のみでは、行き詰まり感がある。抜本的改善策の研究、又は他品種への水平展開の課題が残っている。

(3)水使用量の削減

目標:基準値比1%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
節水活動の推進	△	防火用水吐出量調整 給水系統の点検・整備	○	防火用水吐出量調整、給水管保全等を実施している。総量は減少だが、原単位では未達。

(4)化学物質の適正管理

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
使用量管理の徹底		使用量・在庫量の把握 目で見える管理の推進	○	適正に管理され活動は継続されている。

(5)生産効率化の取組み

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
生産性向上取組みの推進	○	4Mカイゼンの取組み	○	新型コロナ禍影響等で生産金額が大幅に減少した中で、生産性向上率も年間目標対比で平均97%に留まった。 来年度は100%以上を目指し向上できるように生産性改善や検査の徹底を行う。
		加硫前検査徹底、製法確立、作業手順書	○	

【その他の活動】 緊急事態を想定した訓練

・消火避難訓練(年2回実施)

2020年11月2日
2021年3月4日



・危険物施設流出防止訓練(年1回)

2020年12月23日



9. 来年度(2021年7月～2022年6月)の環境経営の計画

環境経営目標	環境経営計画
二酸化炭素排出量の削減 (電力使用量の削減) (LNG使用量の削減) (LPG使用量の削減) (ガソリン使用量の削減) (軽油使用量の削減) (灯油使用量の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ○照明機器LED化の推進 ○太陽光発電検討(中長期で検討) ○省エネパトロール ○低燃費車への更新・社用トラック運転時のエコ運転 ○押出し作業時間／加熱・作業工程の検討 ○押出しCV-2起動時間等の見直し(時季対応)
廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○空ドラム缶再利用 ○作業指導・品質教育による不良低減 ○プロジェクトチーム活動の活性化による不良低減 ○押出品の廃却内容の分析・改善／生産工程の見直し ○押出材料の安定化による不良低減 ○ラッピング貼付厚・長さ管理、研磨代見直し、製法見直しとレベルアップによる廃却ゴム量削減 ○ラッピングゴム横流れ押え改善／スリーブ改善活動の推進による廃却ゴム量削減
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○防火用水吐出量調整 ○給水系統の点検・整備
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ○品種毎の使用量・在庫量の把握 ○目で見る管理の推進
生産効率化の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○製造・技術が連携し4Mカイゼンに取り組む ○ライニング加硫前検査の徹底(工程検査員養成) ○製造方法の確立、構造物作業手順書の改善

【継続活動項目】 活動が定着し、継続実施している項目

環境経営目標	活動項目
電気使用量の削減	○未使用エリアの消灯及び空調の停止
ガソリン使用量の削減	○エコ運転の実施

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)	遵守状況
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃プラ、木くず、廃油)	適
騒音規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機	適
振動規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機、ゴム練りロール機	適
水質汚濁防止法	特定施設:直接加硫缶、重油貯蔵施設	適
大気汚染防止法	ボイラ	適
悪臭防止法	キシレン、MIBK	適
容器包装リサイクル法	「まな板」製品の包装資材	適
工場立地法	9,000m ² 以上の工場敷地	適
消防法	危険物施設、火災報知器、消火設備、指定可燃物貯蔵庫 熱風炉	適
化管法	第1種指定化学物質(トルエン、キシレン、チウラム、N-(ter t-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド)	適
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物、特定毒物(トルエン、キシレン)	適
下水道法	50m ³ /日以上を排出する事業場	適
フロン排出抑制法	冷媒としてフロン使用の業務用機器	適
土壌汚染対策法	水濁法特定施設工場跡地 ※2013年6月(財)福岡県すこやか健康事業団による第1種特定有害物 質11種(塩素系有機溶剤等)、第3種特定有害物質(チウラム)の土壌調 査実施。工場内13地点の土壌ガス調査、表層土壌調査の結果、いずれ の物質も検出なし。	適
特定工場における公害防止 組織の整備に関する法	水濁法の汚水等排出施設(直接加硫缶)に対する公害防止 管理者(水質)選任	適
労働安全衛生法	有機溶剤(有機則)、特定化学物質(特化則)、小型貫流ボ イラ及び第1種、第2種圧力容器(ボイラ則)	適
高圧ガス保安法	LNGサテライト設備(第一種貯蔵所)	適
省エネ法	第二種エネルギー管理指定工場:事業所全体のエネルギー 使用量(原油換算値)1,500kL/年度以上 ⇒2019年6月指定	適
ウラン又はトリウムを含む原材 料、製品等の安全確保に関す るガイドライン	トリウムの放射線濃度が1Bq/gを超える場合	適

2021年6月30日 上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟もありません。

11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

	項目	評価	
全体評価	環境経営方針	全従業員が環境経営方針と自身の所属部署毎の目標に対して、環境負荷軽減を意識した工程を押し進めてください。	
	環境経営目標及び環境経営計画実施状況	コロナ禍の影響もあり生産金額の減少がある。現場によっては、生産稼働を問わず常時エネルギー使用が必要な部署もあり原単位では悪化。必要の無い場所は、最大限の負荷軽減で乗り切るよう全従業員に協力を求める。	
見直し・指示	指示項目	変更の必要性	指示内容
	①環境経営方針	今後変更が必要	来期はSDGsについて検討する。
	②環境経営目標	一部変更	3年連続のコロナ禍で、生産状況の変化があり、要加熱機器のエネルギー使用を原単位で計測すると、負荷増が今後も予測される。節約が不能な部分であり、コロナ禍脱出までは例外として達成率を緩和する指示をした。
	③環境経営計画	変更(追加)	今期計画時、LPG、軽油の計画を追加。
	④環境経営システム	今後変更も検討	EA21も10年目でマンネリ化が有。目新しい改善部分も検討する時期。
	⑤実施体制	今期に変更	今期の計画時、内部監査について明確化した。

株式会社 テクノ月星
代表取締役 柿永 正利



工場内で汲みあげた地下水
近郊の名水と水質は同じです

確かな技術で 切り拓く未来



Techno-Tsukihoshi

〒839-1498
福岡県うきは市浮羽町高見215
株式会社テクノ月星
TEL : 0943-77-2141
FAX : 0943-77-6949
